

Network

退任のご挨拶



健診センター長
外科 青木 克明

私儀、このたび広島共立病院院長を退任いたしましたこととなりました。2002年9月の就任以降、回復期リハ病棟、電子カルテ、医療機能評価、臨床研修病院、ISO9001、などの課題を実現できたのは皆様のお力添えのお蔭と感謝いたしております。今後は保健予防活動を中心に仕事をする予定ですので引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

就任のご挨拶



院長
循環器科 村田 裕彦

私儀、4月1日より青木前院長の後任として院長に就任いたしました。時を同じくして「医療構造改革」関連法が実施され、医療を受ける側も提供する側もかつてない厳しい時代がやってきます。地域医療を崩壊させないためには、医療機関の連携をこれまで以上に密にしていくなことが重要だと私は考えています。重責を担いましたうえは専心努力する所存です。引き続きご指導ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



副院長
外科 高永甲 文男

今日までの医療費抑制政策や臨床研修医制度の導入などの影響で、多方面で医療崩壊がみられています。また、医療の安全や高度医療などの質も求められています。その中で、私達の病院の理念の基に、遂行したいことと実際に遂行可能なことが合致できるのが理想です。患者、地域住民、地域開業医そして私達病院職員にとって、魅力的な病院、選ばれたる病院とは何かを考え、微力ながら努力していきたいと思えます。



副院長
内科 森下 尚明

この度、副院長を仰せつかることになりました。医療・介護の崩壊が叫ばれ、救急医療や高齢者医療など難題が山積する医療情勢の中で、広島共立病院に求められる役割を考え、新院長を補佐して微力ながら地域医療に貢献するべく、奮闘していきたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。



副院長
リハビリテーション科 丸川 晃一

広島共立病院に研修医として就職して、21年経過しました。入職時は2年間内科研修を行い、大学に帰るつもりでした。それが今回、思ってもみなかった副院長になることになりました。性格的にその任ではないと自分でも思います。しかし、5年後の新病院建設のため微力ながら役立ちたいと考えなおし就任することになりました。よろしく願います。

最近の超音波断層法の画像の進化は目覚しく、迅速で非侵襲かつ低コストな診断法として確立され、多くの情報を提供できる検査として非常に意義も高く、さらなる発展を続けています。

広島共立病院のエコー室では、四台の機器を使って三〜四名の技師と医師が検査に携わっています。また健診センター・救急室でもエコー検査を実施しています。

エコー検査は毎年、依頼が増え続け、昨年の総数は一万件を超えました。

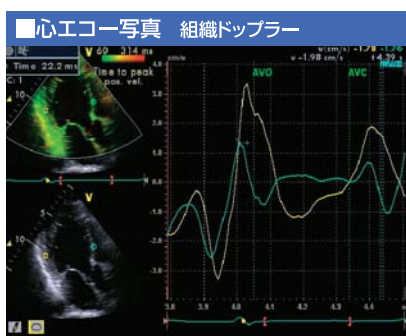
最近の特徴としては、乳腺外来の受診率の高さと精密検査増による、乳腺エコーと乳癌発見数の増加があげられます。乳腺・甲状腺などの吸引細胞診や組織診もエコーガイド下で実施し、多くの診断に貢献してきました。

心エコーでは、組織ドップラー法にて新しい心機能評価法が可能となり、これまで困難であった左室拡張能や左室非同期性の評価が容易になりました。また、左房血栓の評価に、経食道心エコーも行っています。

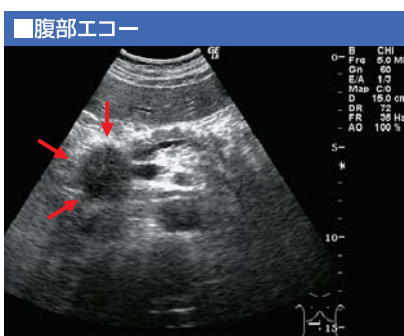
エコー検査は食事制限の都合と待ち時間対策で予約制を取っていますが、当日依頼にも柔軟に対応しており、全体では二〜三割、乳腺に限れば約五割が当日依頼で、病気の早期発見に努めています。

腹部・心臓・血管・乳腺・甲状腺など幅広い分野にエコーの活躍の場があり、日々進歩する医療と機器とにらめっこしながら悪戦苦闘の毎日です！

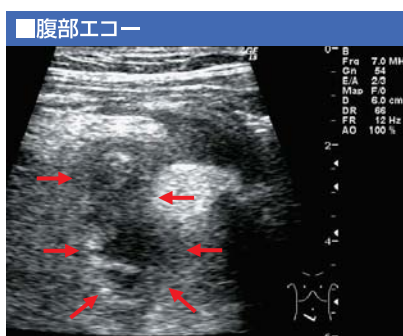
(検査科 琴浦 恵)



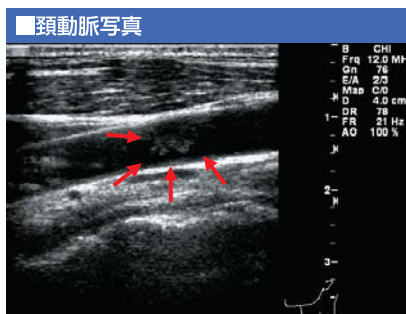
心筋局所の運動を定量的に評価する



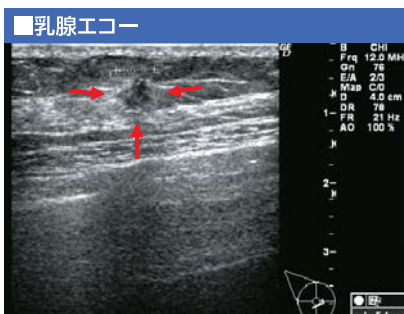
脳頭部癌



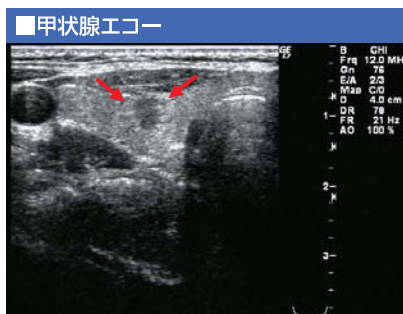
急性虫垂炎(蜂窩織炎性)



総頸動脈内に認められた血栓



触診・MMGで指摘できない5mm大の微小浸潤癌



触診では指摘できない5mm大の甲状腺癌(乳頭癌)

患者さまから
“よく こんな暗い部屋です
と仕事してイヤじゃない?!”
と聞かれますが…みんな
明るいから大文~夫ダ!!



HITACHI EUB-6500
GE Vivid 7
GE LOGIQ 5PRO
GE LOGIQ 7





医長 東 浩一
昭和61年／広島大学卒

広島共立病院小児科は、地域の他機関と連携を重んじ、外来診察、入院の受け入れまたは専門機関への紹介を行っています。入院は、年間300人ぐらいで、幅広くいろいろな疾患に対応していますが、医師が一人のため、なかなか地域の要求に応えきれずにご迷惑をおかけしております。

外来では、喘息、アトピー性皮膚炎、てんかんなど慢性疾患の定期管理を中心に、成長障害、夜尿症などの専門治療も行なっています。

また、曜日別に乳児検診や予防接種などの保健活動も行い、心身症などは最初に医師が面談を行い、必要に応じて心理療法や遊戯療法などができる大学などの専門機関を紹介しています。他科との境界領域疾患についても橋渡しの役割を果たしています。

疾病の診断や治療としての場のみだけでなく、家族にとって相談しやすい

場、家族と一緒に育児を考え、悩み、実践する場として、広く患者様のお役に立てるよう努めています。なんでも気軽にきける、和気あいあいな雰囲気を目

指しております。いろいろな悩みや問題があれば、遠慮なくお尋ね下さい。



共立病院・転倒・転落予防チーム ラウンド紹介

2007年4月より共立病院のリスクマネージメント委員会の中に転倒・転落予防チームが発足しました。目的は転倒・転落事故防止を推進するために結成されたチームです。主な活動内容は「院内ラウンド・事故分析と主職場へのフィードバック」家族・患者への指導援助」を行うためのシステムです。

メンバーは病棟師長、外来師長、リハビリテーション科長の3名で構成されています。

今年度の目標は

- 1 院内ラウンドを定期的実施し、療養環境の点検、リスク評価のチェックを行い患者、家族、職場と共同で転倒転落を予防できる
- 2 *SSカードの報告から職場と事例分析し、転倒、転落防止に必要な対策指導と情報提供を行い院内に警鐘事例としてフィードバックできる。

病棟のリスク評価9点以上の患者様を中心に、毎週病棟の看護師とラウンドしベッドの高さや柵の使用状況、ベッドサイドの環境を見て回ります。スリッパを履いて危なそうな患者様にはその場で指導させていただきます。ラウンドをしなから気が付いたことや問題点を共有しながら改善していきます。この地道な活動が大きな事故を防ぐことにつながるためラウンドに力を注いでいます。

(転倒・転落予防チーム 鈴木貴子 立石純子 大曾根眞理江)



定期院内ラウンドでの患者指導